

2017年12月24日

福音書からのメッセージ

マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。

(ルカによる福音書1章38節)

今日の物語は、最初のクリスマスより1年近く前の出来事です。今から2000年前、ガリラヤのナザレという町にいたマリアには、ヨセフといういいなずけがいました。いいなずけとは、婚約はしていますが結婚式はしていない状態です。婚約後、女性は自分の父の家で一年間過ごし、そして花婿が迎えに来て正式に婚姻関係を結ぶというのが、当時の慣例だったそうです。

彼女はまだヨセフと結婚していない状況で、天使ガブリエルを迎えました。彼女にとって、イエス様の誕生予告は簡単に受け入れられるものではありませんでした。それは彼女にヨセフという婚約者がいても、一緒には住んでいないからです。その状況で赤ちゃんを身ごもってしまったならば、大変なことになるのは火を見るよりも明らかでした。

当時いいなずけがいる女性が妊娠してしまったら、婚約が解消されるだけではなく、石打ちの刑に処せられ、殺されることもありました。たとえ生きていくことが許されたとしても、生まれてくる子は一生後ろ指を指されるでしょう。不貞の女の子どもだと差別され、ずっと日影を歩いていかなければならない。そんな想像が彼女の頭の中を渦巻いたと思います。

つまり彼女にとって神さまのみ心を受け入れることは、いばらの道を選ぶことなのです。天使は「おめでとう」と簡単に言いますが、人間の目から見ると、「おめでとう」で済まされる出来事ではないのです。

このように最初のクリスマスは、戸惑い、不安、恐れから始まりました。本当のクリ



スマスは、そういうものなのです。わたしたちはイエス様の誕生を、一方的なプレゼントだと喜んでいられるかもしれませんが、本当にイエス様を受け入れようとしたら、多くの犠牲を払い、困難な道に突き落とされることだってあるのです。

その中で、マリアは天使ガブリエルに答えました。「お言葉どおり、この身になりますように」。彼女には、明るい光が見えたのでしょうか。そうではないと思います。彼女の目には、暗闇しか映っていなかったことでしょう。しかし、暗闇の中で神さまを信じたのです。恐れの中で神さまのみ心に従い、その身を委ねる決心をしたのです。

わたしたちにも神さまは手を差し伸べてくださいます。イエス様を救い主として与えてくださいます。しかし受け入れることができずに、恐れの中で戸惑うこともあるでしょう。それでも、神さまのみ心を受け入れていきたい。そしてわたしたちの目には見えない神さまのご計画に、身を委ねることができたらと思います。

あなたにとって素晴らしいクリスマスとなりますように、お祈りしております。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>